

韓国観光説明会・交流会出席 及び  
富山県・ロシア沿海地方友好提携 25 周年記念  
富山県友好訪問団、経済・物流訪問団、観光訪問団  
概 要 報 告

平成 29 年 7 月 6 日（木）～ 9 日（日）

富山県

韓国観光説明会・交流会出席及び富山県・ロシア沿海地方友好提携 25 周年記念富山県友好訪問団、経済・物流訪問団、観光訪問団派遣等活動結果報告について

1 日 程

日 付	日 程	場所等	備 考
7月6日(木) 〔1日目〕	【知事】 (7月5日に東京入り) 東京→仁川 ～韓国観光説明会・交流会から観光訪問団に合流～		【ソウル泊】
	【友好訪問団】 【経済・物流訪問団】 ・結団式 富山→ウラジオストク	富山空港国際線ビル	【ウラジオストク泊】
	【観光訪問団】 (7月5日にソウル入り) ・旅行会社訪問 ・商談会 ・韓国観光説明会・交流会	ハッサー、モトウツァー ホテルプレジデント ホテルプレジデント	【ソウル泊】
7月7日(金) 〔2日目〕	【知事】 仁川→ウラジオストク ～沿海地方知事表敬訪問から友好訪問団に合流～		【ウラジオストク泊】
	【友好訪問団】 ・極東連邦大学訪問 ・ロシア科学アカデミー太平洋地理学研究所訪問 ・在ウラジオストク総領事館表敬訪問 ・沿海地方知事表敬訪問 ・富山県・沿海地方友好提携 25 周年記念祝賀会	極東連邦大学 ロシア科学アカデミー太平洋 地理学研究所 在ウラジオストク総領事館 沿海地方政府庁舎 ウラジオストク市内レストラン	【ウラジオストク泊】
	【経済・物流訪問団】 ・船会社 (FESCO) 訪問 ・ウラジオストク商業港訪問、視察 ・ウラジオストク日本センターでのブリーフィング ・日系商社との意見交換会	FESCO ウラジオストク商業港 ウラジオストク日本センター ウラジオストク日本センター	【ウラジオストク泊】
	【観光訪問団】		

	仁川→ウラジオストク		【ウラジオストク泊】
7月8日(土) 〔3日目〕	【知事】 ～経済・物流セミナー及び伏木富山港・ウラジオストク商業港友好提携 25周年記念レプションまで経済・物流訪問団に同行し、友好訪問 団と「とやま文化DAYS」を視察した後、沿海地方とやま友 の会設立総会に出席、その後、富山県・沿海地方友好提携25周 年記念交流会から友好訪問団に合流～		【ウラジオストク泊】
	【友好訪問団】 ・とやま文化DAYS視察、森本庭園視 察 ・ウラジオストク日本センターでのブリーフィング ・富山県・沿海地方友好提携25周年記念 交流会	ウラジオストク経済サービス大 学 ウラジオストク日本センタ ー ヒュンダイホテル	【ウラジオストク泊】
	【経済・物流訪問団】 ・経済・物流セミナー ・伏木富山港・ウラジオストク商業港友好提携 25周年記念レプション ・とやま文化DAYS視察 ～富山県・沿海地方友好提携25周年記 念交流会から友好訪問団に合流～	ヒュンダイホテル ヒュンダイホテル ウラジオストク経済サービス大 学	【ウラジオストク泊】
	【観光訪問団】 ～終日友好訪問団に同行～		【ウラジオストク泊】
7月9日(日) 〔4日目〕	【知事】 【友好訪問団】 【経済・物流訪問団】 【観光訪問団】 ウラジオストク→富山		

## 2 名 簿

### (1) 県友好訪問団 名簿

(順不同、敬称略)

区 分	役 職	氏 名	
団 長	富山県知事	いしい たかかず 石井 隆一	
顧 問	富山県議会議長	ひえなえ せいきち 稗苗 清吉	
団 員	経済	富山県商工会議所連合会会長	たかぎ しげお 高木 繁雄
	薬業	富山県薬業連合会国際交流委員長	いなだ ひろひこ 稲田 裕彦
	女性	富山県商工会議所女性会連合会会長	こんどう ひろよ 近藤 裕世
	青年	日本青年会議所富山ブロック協議会副会長	はぎわら みちただ 萩原 康忠
	芸術文化	富山県芸術文化協会会長	かとう きよし 加藤 淳
	観光	日本旅行業協会中部支部富山地区委員会副委員長	まつだ たかし 松田 隆
	国際交流	富山ウラジオストク会会長	やの しげる 矢野 茂
富山ロシア協会会長		やまだ ひろし 山田 博	
合 計		10名	

(2) 県経済・物流訪問団 名簿

(順不同、敬称略)

区 分	役 職	氏 名
団 長	富山県知事	いしい たかかず 石井 隆一
副団長	国際拠点港湾伏木富山港ポートセールス推進協議 会会長 富山県経済交流推進協議会会長	たかぎ しげお 高木 繁雄
団 員	射水商工会議所 副会頭 北陸ポートサービス(株) 会長	かじ ひでお 加治 秀夫
	富山高等専門学校 名誉教授	みやたに だいさく 宮谷 大作
	富山港湾運送(株) 取締役	かわい しげお 河井 重夫
	長澤国際行政法務事務所 所長	ながさわ くにお 長澤 邦男
	日本通運(株) 富山支店長	やすたけ さとし 安武 聡
	日本貿易振興機構(ジェトロ)富山貿易情報センター所 長	やまもと さとし 山本 諭
	伏木海陸運送(株) 代表取締役副社長	だいもん よしゆき 大門 督幸
	伏木海陸運送(株) 取締役・営業部長	ほそかわ ひであき 細川 英明
	伏木海陸運送(株) 係長	きくち りょうすけ 菊池 亮介
	北陸環日本海経済交流促進協議会(北陸 AJEC) 理 事・経済交流部長	すぎやま まさき 杉山 正樹
	(株)北陸銀行 常務執行役員	むとう きよし 武藤 清
三井物産株式会社 北陸エネルギー一室長	かわい たいし 河井 太志	
合 計		14名

## (3) 県観光訪問団 名簿

(順不同、敬称略)

区 分	役 職	氏 名
団 長	富山県知事	いしい たかかず 石井 隆一
副団長	とやま観光推進機構 会長	たかぎ しげお 高木 繁雄
団 員	ANAクラウンプラザホテル富山 宿泊予約チーフ	しまさか たえこ 島坂 妙子
	金太郎温泉 営業課長	うらさき まさとし 浦崎 将寿
	黒部峡谷鉄道(株) 営業部長	ふじた よしひろ 藤田 義弘
	新湊うまいもん(株)新湊きつときと市場 店長	いとう なおや 伊藤 直哉
	新湊うまいもん(株)新湊きつときと市場 営業部長	あらい よしと 荒井 良人
	(株)新湊観光船 副社長	きむら ひろ 木村 広
	(株)新湊観光船 営業担当	きむら じゅん 木村 純
	立山黒部貫光(株) 営業推進部次長	ささき けんじ 佐々木 健治
	立山黒部貫光(株) 海外営業センター所長	かなもり しんいちろう 金森 伸一朗
	中部観光(株) 営業部長	うらしま かずひろ 浦島 一博
	福野タウンホテル(株) 代表取締役社長	うえだ れいこ 上田 玲子
	ホテルおがわ 営業課長	こぼり としひさ 小堀 寿久
	(有) 民宿いけもり 営業部長	いけもり のりこ 池森 典子
合 計		15名

### 3 活動結果

7月6日（木曜日）韓国・ソウル

#### ◎知事の日程

##### （1）エアソウル社長との懇談

ア 日 時：7月6日（木）18：20～18：40

イ 場 所：ホテルプレジデント内会議室

ウ 富山県側：石井知事、鈴木航空政策課長

エ 相手方：柳光熙（リュ グァンヒ）代表取締役社長、  
          チョ ジンマン 常務経営本部長、  
          カン ミンギュ チーム長（日本路線責任者）

#### オ 内 容：

○石井知事から次のように挨拶と要請を行った。

- ① 柳社長にお目にかかれて嬉しく思う。韓国を訪問するのは5度目で、柳社長にお目にかかるのは4度目である。富山—ソウル線は1993年4月就航以来、本年で25年目を迎えた。就航から昨年10月まではアジアナ航空に、昨年11月からはエアソウルが引き継ぎ、運航を継続していただいていることに感謝している。
- ② 昨年の立山黒部アルペンルートの外国人観光客数は、過去最高の24万2000人となったが、このうち韓国からの観光客は1万8000人で対前年10%増となった。さらに本年4月から6月までの韓国人観光客は83%増となっており、黒部峡谷鉄道も同じ期間77%増となっている。韓国最大手の旅行会社によれば、立山黒部など富山県への送客は大変好調であると聞いているが、多くが中部空港や小松空港から大韓航空を利用していると聞く。
- ③ 富山への送客を取り込むために、貴社の韓国国内での知名度の向上や団体向けチケットの早期販売等の課題があると聞いており、貴社のさらなる営業努力をお願いするとともに、貴社と本県との連携でさらなる利用増が見込めると考える。
- ④ ついては、富山—ソウル便について、事務的には機材繰りの課題があると聞いてはいるが、通年運航、せめて、運休期間の短縮をお願いしたい。また、運航時刻について2時間程度早めていただければ、他の国際線への乗り継ぎ利用やソウル市内での会合などに出席しやすくなるので検討を願いたい。アジアナ航空時代は富山からソウル便を利用して Guam やマレーシアへの乗り継ぎ利用が盛んであったと聞いている。

○柳社長から、次のような返答があった。

- ① 多忙の石井知事にお時間をいただき、ソウルでお目にかかれたことは大

変喜ばしく、また、就航時に式典等で知事に歓迎頂いたことをありがたく思っている。

- ② 富山ーソウル便に対するこれまでの富山県の支援や今般、ソウルで観光説明会を開催いただくことに感謝している。知事のご指摘のとおり確かに韓国人の訪日需要は伸びており、エアソウルとしても取り組みを強化し、ご懸念のことは適切に対処したい。
- ③ 知事の言われた富山ーソウル便の通年運航等については、エアソウルとしても重要な宿題と捉えており、この場では確言できないものの、当社として最大限努力したい。
- ④ 私にとって日本路線には様々な宿題があるが、一番の宿題は富山線の通年運航等と考えており、よく検討する時間を頂きたい。

○石井知事から、柳社長の前向きのお答えを喜ばしく思うこと、a 立山黒部アルペンルートは韓国では50代、60代の中高年の方に人気と聞く一方で、若い外国人個人旅行客（FIT（エフ・アイ・ティー））には独り旅できるスポットが人気と聞いているが、富山県には内川・新湊、富岩運河環水公園など独り旅に恰好の観光資源があり、若い人に多いFIT層へのアピールと誘客にエアソウルと連携して努力していきたいこと、b また、韓国の方は雪見をしながら温泉を楽しむのが大変お好きと聞いているが、宇奈月温泉、庄川温泉等ではそれが魅力のスポットが多くあり、こちらもぜひ楽しんでいただきたいこと等を述べた。

○柳社長からは、当社ではキャビンアテンダントが就航先をPRする動画を作成しており、アルペンルート、黒部峡谷と並んで、環水公園や雪見温泉も取り上げており、一層努力したいとの返答があった。

## （2）韓国観光説明会・交流会【観光訪問団】

ア 日 時：7月6日（木）18：40～20：45

イ 場 所：ホテルプレジデント 19階「Brahms Hall」ブラームスホール

ウ 富山県側：石井知事、高木とやま観光推進機構会長ほか富山県観光訪問団団員 23名

エ 相手方：①柳<sup>りゅう</sup>エアソウル代表取締役社長、②任<sup>いむ</sup>JNTOソウル事務局局長ほか現地旅行会社等 計15社・団体25名

オ 内 容：

○石井知事から、①富山ーソウル便は今年で就航25年目となるが、富山県と韓国の間には、経済・観光・文化など幅広い分野において交流がますます深まってきている。例えば本県の代表的な国際観光地である立山



黒部アルペンルート<sup>①</sup>の昨年の外国人観光客のうち韓国人の観光客数は約18,000人で、対前年比110%であったが、更に本年4月から6月は、対前年比183%と大変好調に推移していること、②富山県には、自然が豊かで美しく、トレッキングも楽しめる立山黒部アルペンルートや黒部峡谷のほかにも、世界遺産である五箇山合掌造り集落、国宝瑞龍寺など多彩な歴史・文化資源があり、また、新鮮な海の幸・山の幸、さらには温泉などの魅力的な観光資源が豊富であること、③富山湾は「世界で最も美しい湾クラブ」への加盟（平成26年10月）が全会一致で承認されるなど、その魅力が世界からも広く認められていること、④湾岸サイクリングコースの自転車専用道の整備やマリーナ施設の抜本的な拡充・整備、一昨年からの富山マラソンの開設などの取り組みを進めており、「富山湾岸サイクリング 2017」（本年4月）には、台湾のジャイアント会長のご令嬢（台湾自転車新文化基金会執行長）ご一行が参加され、私もエスコートのため67kmのサイクリングを楽しんだこと、⑤富山—ソウル便が少なくとも年間を通して週3便以上運航し、柳社長と一緒に富山湾岸サイクリングを楽しめる日が早く来ることを、私の夢として祈念していること、などのご挨拶、説明を行った。

○次に、エアソウルの柳代表取締役社長から、①富山県はアルペンルートや称名滝など自然景観に恵まれた美しい観光地であり、今回の説明会を機に、エアソウルを利用して富山県を訪れる観光客が増加することを期待している、②エアソウルとしても、両国の観光産業等の発展のため、富山県と引き続き協力していきたいと考えており、関係者の皆様にもますますの支援をお願いしたい、とのご挨拶をいただいた。

○その後、韓国のプレゼンターから、パワーポイントにより、①立山黒部、黒部峡谷、五箇山合掌造り集落等の県内主要観光地とともに、②一昨年7月にオープンしたアウトレットパーク北陸小矢部、昨年11月ユネスコの無形文化遺産に登録された高岡御車山祭りなどの曳山行事、本年4月にオープンした高岡の鋳物工場「能作」や、8月に全面開館する富山県美術館などの新たな観光資源、並びに③これらを周遊する広域モデルコースなどについて紹介と説明を行い、今後の一層の送客を働きかけた。

○さらに、JNTOソウル事務所の任局長より、富山県は、個人旅行者向けの体験型観光や、ユニークなコンベンション・企業団体旅行ツアーの造成に最適な地域であり、皆さんに是非おすすめしたい、とのご挨拶をいただ

いた。

○その後、高木副団長（とやま観光推進機構会長）から、①富山県には登山、トレッキング、スキーなどのアウトドア、温泉や美味しい富山湾の魚など、韓国で人気があり世界的にも誇りとできる観光資源が豊富であること、②「おもてなし」力がとても高く、富山を訪れた観光客に必ず満足していただけることなどのPRとご挨拶をいただいた。

○韓国側の旅行会社からは、①今回の観光説明会で、富山の大自然を満喫できるトレッキングをはじめとするアクティビティ体験や、温泉などの観光資源を良く理解することができた、②韓国で人気のある紅葉の季節の富山県への送客に向け、商品造成を促進していきたい、③富山—ソウル便の送客助成制度は、大変ありがたい。この制度を活用して、今年は旅行商品の造成に取り組みたい、などの積極的な発言が寄せられた。



観光説明会での挨拶



柳社長からの来賓挨拶



任局長による乾杯



会場の様子



観光資源等の紹介と説明



来賓(左から任局長、柳社長)、高木副団長と

○なお、観光説明会・交流会の開催に先立ち、15時30分から18時まで、同ホテル内の別会場において、県内の10観光事業者と現地旅行会社等(15社・25名)との商談会を開催した。今後の旅行商品造成に向けた活発な商談が行われ、参加した富山県の事業者からは、①富山空港・富山駅からの詳細なアクセスを質問されるなど、富山県に関心の高い韓国の事業者が多く、今後の韓国からの送客に期待できる、②商談会を含め韓国での営業活動は初めてで、施設の認知度はなかったが、今回、参加メディア(新聞社)の取材を受け、商談会の様子がWEBサイトに掲載されるなど、認知度向上に効果があったと考えているなど、参加団員は、今後の韓国からの送客に対するかなりの手応えを感じたとのことであった。



活発に行われた商談会



熱心にPRする観光事業者

**7月7日(金曜日) ロシア・ウラジオストク**

◎知事の日程

(1) 沿海地方政府表敬訪問と新協定書の締結【友好訪問団】

ア 日 時：平成29年7月7日(金) 17:00～17:50

イ 場 所：沿海地方政府 7階会議室

ウ 富山県側：友好訪問団（石井知事、稗苗議長ほか8名）、日露友好議員連盟訪露団（大野団長ほか11名）  
（笠井在ウラジオストク日本国総領事が同席）

エ 相手側：ミクルシェフスキー知事、ローリック沿海地方議会議長ほか4名

オ 内 容：

○ミクルシェフスキー知事から、25周年という節目の年に22名という大きな代表団が訪問したことに感謝するとの挨拶に続き、①沿海地方など極東地域については、既存の「特別経済区」とは異なる投資優遇制度の適用や、ウラジオストク市とその周辺地域を新たな経済特区とし税の減免や入国ビザ制度を簡素化するウラジオストク自由港法の施行がなされるなど、プーチン大統領はじめ中央政府が、その発展に力を入れていること、②サンクトペテルブルクにあるエルミタージュ美術館の分館と位置づけた文化施設をウラジオストクに建設するなど、文化面の魅力を高めることにより観光振興を図ることも検討を進めていること、③両県・地方の経済交流はもとより、文化交流の促進も図り、今後毎年、富山県文化 DAYS を沿海地方で、沿海地方文化 DAYS を富山県で継続的に開催するについても検討していきたいこと等について発言があった。

○石井知事から、友好訪問団及び日露友好議連訪問団を受け入れていただき感謝する旨の挨拶とともに、①25年の間、海外技術研修員、県費留学生、県職員派遣などの交流、伏木富山港とウラジオストク商業港を中心とした物流・経済面での交流、NOWPAP や 2016 北東アジア自治体環境専門家会合とやま宣言に沿った環境保全の面での協力など、様々な分野での交流が進展していること、②ロシア極東地域の発展を目的とした「優先的社会経済発展区域（TOR）」やウラジオストク自由港に関する連邦法が各々2015年に施行されたことは私も承知しており、沿海地方の発展のため喜ばしいと考えていること、③安倍総理がプーチン大統領に提案し合意された8項目の経済協力プランの進展のためには、国レベルでの交流進展とともに、地方における交流が不可欠であると考えていること、④したがって、これまでの交流の実績を踏まえて、富山県と沿海地方が貿易・経済、人的及び文化交流・協力のための新たな協定書を結び、両県・地方がウィン・ウィンの関係で、ともに発展するよう、お互いに連携・協力していきたいこと、⑤5年前まで、極東連邦大学の学長を努めていたミクルシェフスキー知事が経済面のみでなく文化面での交流への強い思いを持っておられることに感銘を受けたこと、⑥富山県は2015年の医薬品生産額が7,300億円超で全国1位となるなど、日本の地

方では屈指のものづくり県であるだけでなく、4年に1度のとやま世界こども舞台芸術祭（24の国と地域から約3,000人のこどもたちやボランティアが参加）の開催や南砺市利賀の県立利賀芸術公園に世界的な演出家の鈴木忠志氏の拠点があるなど、文化の面でも特色、強みを持っていること等について述べた。

○次に、石井知事とミクルシェフスキー知事が、各々両県・地方の関係強化に向け、①貿易・経済交流の促進、②物流の活発化、③文化、学術・教育、スポーツ分野での関係強化、④観光関係機関相互の関係の構築・拡大、⑤環境保全の協力促進の5分野を中心とする新協定書に署名を行った。

○その後、25周年記念品として、ミクルシェフスキー知事から石井知事へ、サンクトペテルブルク産の花瓶が贈られ、石井知事からミクルシェフスキー知事へ、<sup>くろしのぎはないれ</sup>釋永由紀夫作「黒鎬花入」を贈呈した。

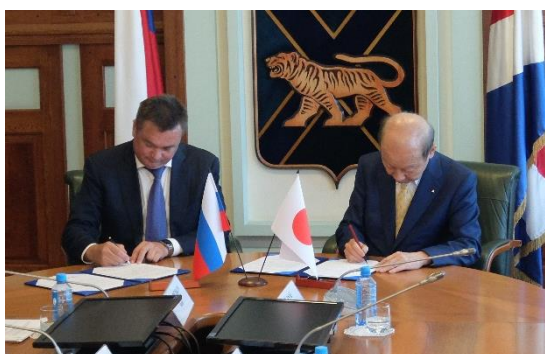
○また、富山県・沿海地方友好提携25周年を記念して、沿海地方政府敷地内において、ヤマザクラの植樹式が行われた。なお、ロシアの植樹は、日本の一般的な植樹祭などと異なり、植樹する場所の穴の容量も大きく、埋め戻す土量もかなり大きい本格的なものであった。



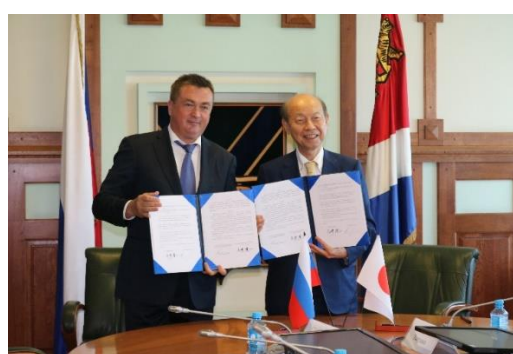
沿海地方政府での知事挨拶



沿海地方政府での意見交換



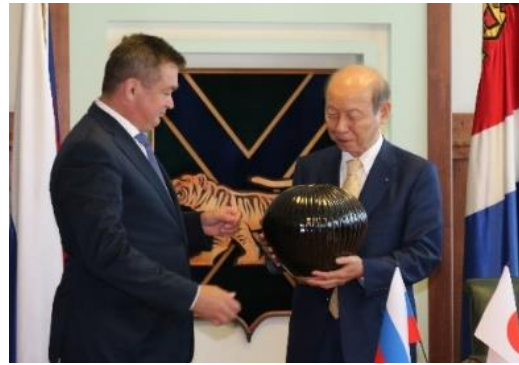
新協定書への署名



新協定書披露



記念品交換



記念品交換



植樹式の様子



植樹記念板

## (2) 友好提携25周年記念祝賀会【友好訪問団】

ア 日 時：平成29年7月7日（金）18：30～20：00

イ 場 所：レストラン「Kitchen（キッチン）」

ウ 富山県側：友好訪問団（石井知事、稗苗議長ほか8名）、日露友好議員連盟訪露団（大野団長ほか11名）

エ 相手側：ミクルシェフスキー知事、ローリック沿海地方議会議員、パリュンスキー副知事、スタリチコフ国際協力局長など

オ 内 容：

○ミクルシェフスキー知事より、友好提携25周年を迎えたことは大変意義深く、また、プーチン大統領と安倍総理の首脳会談でロシアと日本の連携・協力を深める方向が打ち出されている重要な時期に富山県の訪問団を受け入れることは光栄であり、かつ、新しい協定を締結したことは喜ばしいとの挨拶があった。

○石井知事より、国同士の関係の発展のためにも地域間の交流が重要であり、富山県と沿海地方は日本海をはさんで対岸の近接した位置にあり、ともに良港を有するなど、共通点も多いことから、経済・物流や観光をはじめ文化面などでも更なる交流を進めていきたい、そうした積み重ねの上に、平成22

年（2010年）に休止となった富山—ウラジオストク便を将来復活させることなどについても双方で努力していきたい旨の挨拶を行った。



祝賀会挨拶



乾杯

#### ◎各訪問団のその他の日程

##### 【友好訪問団】

##### （1）極東連邦大学訪問

ア 日 時：平成29年7月7日（金）10:00～11:00

イ 場 所：極東連邦大学キャンパス

ウ 富山県側：顧問の稗苗議長ほか友好訪問団7名

エ 相手方：クリロフ法学部長、ハマトーバ東洋学部教授ほか2名

オ 内 容：

○極東連邦大学のクリノフ法学部長から、①富山ウラジオストク会及び県が同大キャンパスに植樹した桜並木が毎年花を咲かせ学生や市民の目を楽しませていること、②県費留学生として同大学の学生を富山大学に数多く受け入れていること、③県が毎年5月に日本語スピーチコンテストを開催しており、同大学で日本語を学ぶ多くの学生の学習支援に役立っていることへの謝意が述べられた。

○稗苗県議会議長より、①富山県と沿海地方が友好提携25周年を迎えたこと、②富山ウラジオストク会と県との共同による友好の桜並木が両県・地方の交流のシンボルとなることを期待すること、③富山県には雄大な立山連峰や世界で最も美しい湾クラブに加盟した富山湾などすばらしい観光資源があること等を紹介した。

○表敬訪問終了後、「富山・ウラジオストク友好桜並木」を視察した。



極東連邦大学関係者との意見交換 「富山・ウラジオストク友好桜並木」視察

(2) ロシア科学アカデミー太平洋地理学研究所（北西太平洋地域海行動計画・汚染モニタリングセンター（NOWPAP/POMRAC））訪問

ア 日 時：平成29年7月7日（金）13：45～14：30

イ 場 所：太平洋地理学研究所

ウ 富山県側：顧問の稗苗議長ほか友好訪問団7名

エ 相手方：エモーシン所長、ピョートル前所長、アナトーリー一副所長・POMRAC 所長など

オ 内 容：

○冒頭、エモーシン所長の歓迎の挨拶に続いて、アナトーリー一副所長・POMRAC 所長より、POMRAC の大気及び河川からの海洋への汚染物質の流入に関するモニタリングなどの活動紹介が行われ、大気を含む海洋保全の取組みには富山県との協力が不可欠であり、富山県にある地域調整部（NOWPAP/RCU）及び公益財団法人環日本海環境協力センター（NOWPAP/CEARAC）との協力が欠かせない旨の説明があった。

○ピョートル前所長からは、①日本海は国を隔てるものではなく国と国を結んでいる周辺国の共有財産であること、②日本海のどこかで海洋汚染が発生すれば海でつながっている日本、ロシアなどの周辺国にも必ず影響が及ぶこと、③それゆえ、北西太平洋地域海行動計画の取組みが非常に重要であり、引き続き支援と協力をお願いしたいことについて言及があった。

○稗苗議長より、日本とロシアは海も大気も一つでつながっていることから、日本とロシアとが手を携えてともに環境保全に取り組むことが重要であり、富山県民の NOWPAP に対する理解がさらに進むように、また環日本海地域の海洋保全の取組みが一層活発になるように努力したい旨の考えを示した。





研究所の関係者との意見交換



研究成果について説明を受ける様子

(3) 在ウラジオストク総領事館表敬訪問

ア 日 時：平成29年7月7日（金）15：30～16：00

イ 場 所：在ウラジオストク総領事館

ウ 富山県側：顧問の稗苗議長ほか友好訪問団7名

エ 相手方：笠井総領事、景山副領事

オ 内 容：

○稗苗県議会議長から、ウラジオストクでのスピーチコンテストの開催や、「富山・ウラジオストク友好桜並木」の植樹への協力について、謝意を述べた。

○笠井総領事から、①ロシア政府による極東への積極的な投資、②ウラジオストクで毎年開催される東方経済フォーラム、③安倍総理・プーチン大統領間の様々な協議等、沿海地方には追い風が吹いているとの話があった。



総領事館表敬



総領事館での記念撮影

【経済・物流訪問団】

(1) 船会社（FESCO）訪問

ア 日 時：7月7日（金）9:30～11:00

イ 場 所：FESCO会議室

ウ 富山県側：経済・物流訪問団（12名）

エ 相手方：コルチャノフ 第一副社長

ワジム ウラジオストク支社長等（計6名）

オ 内 容 :

- 冒頭、富山県加藤土木部長より、伏木富山港とロシア極東を結ぶ国際定期航路を30年以上の長きにわたり就航いただいていることへの感謝を述べるとともに、日本とロシア両政府で、首脳会談をはじめとした政治対話を加速させており、今後、両国間で、さらなる経済交流、物流の活性化が期待されることから、今後とも、本県とロシア極東との物流を支えていただきたい旨の挨拶を行った。
- コルチャノフ第一副社長より、経済・物流訪問団に来社いただいたことへの感謝、伏木富山港は古くから航路を就航しており、また、日本海側の港として同社としても大切な港であると認識している旨、挨拶があった。
- ワジム ウラジオストク支社長より、同社は、アジア、アフリカ、北米に支店を有しており、船舶、鉄道、港を保有し、ウラジオストクを拠点とした同社の運送サービス事業について、説明があった。
- また、同社は、ウラジオストクからモスクワに向けて週9便の鉄道輸送サービスを実施しており、日本からモスクワまで、これまで20日~22日間でコンテナ貨物を輸送している旨の、紹介があった。
- 富山県柿沢商工労働部次長より、本県は、ロシア向け貨物の集荷を図るため、シベリアランドブリッジを使ってモスクワ方面と輸出入したいと考えている荷主企業や、太平洋側の港から貨物を伏木富山港にシフトした荷主企業向けに支援制度を設けている旨の説明を行い、今後とも、互いに協力しあって貨物の集荷を図っていききたい旨、説明した。
- 伏木海陸運送株式会社の代表取締役大門副社長より、今後とも、同社の船社代理店として、ロシア向け貨物の集荷に取り組んでいきたい旨の挨拶があった。



冒頭挨拶



FESCO からの事業説明

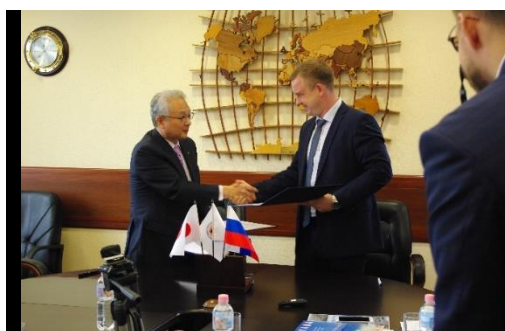
(2) ウラジオストク商業港訪問及び視察

ア 日 時 : 7月7日(金) 11:15~12:30、13:30~14:

イ 場 所：ウラジオストク商業港株式会社本社、ウラジオストク商業港  
 ウ 富山県側：加藤土木部長、柿沢商工労働部次長、  
 大門伏木海陸運送代表取締役副社長等計20名  
 エ 相手方：セルゲイ・シマニキンウラジオストク商業港生産部長等計7  
 名

#### オ 内 容

- 1992年（平成4年）に伏木富山港と友好提携協定を締結したウラジオストク商業港の本社を訪問し、商業港の幹部の方から同港の概要説明を受けるとともに、富山県側から、伏木富山港におけるロシア向けの貨物量を増やすため、伏木富山港とシベリア鉄道を利用した貨物輸送を行う企業に対し支援していることなどについて説明し、ウラジオストク商業港から感謝の意が示された。
- 両港が友好提携を締結して今年で25周年になるのを機に、新たな友好提携協定書を締結し、今後、両港が協定の実現に向けて努力するとともに交流を積極的に推進していくことを確認した。
- ウラジオストク商業港のコンテナターミナルや荷役機械などの港湾施設の視察を行った。
- コンテナターミナルについて、年間60万TEUの貨物処理能力を有していること、1時間あたり、20本のコンテナを積み下ろしできるガントリークレーンを6基保有していること、コンテナヤード内には、1万5千TEUの貨物をストックできることなど、港湾機能の説明があった。
- また、港の内部まで鉄道が敷かれており、コンテナターミナル内で、海上コンテナを鉄道に積み替えることができる旨、紹介があった。



協定書の締結



コンテナターミナルの視察

### (3) ウラジオストク日本センターでのブリーフィング及び日系商社との意見交換会

ア 日 時：7月7日（金）15：40～17：00  
イ 場 所：ウラジオストク日本センター  
ウ 富山県側：経済・物流訪問団（12名）  
エ 相手方：ウラジオストク日本センター 向井一良所長  
三井物産モスクワ有限会社 岩垂英彦ウラジオストク支店長  
ロシア三菱商事 川辺亮ウラジオストク支店長

オ 内 容：

○ロシア極東、沿海地方の概況、経済特区、ウラジオストク自由港制度、ロシア・沿海地方の日系企業、ロシア企業等について説明を受けた。日系商社が行っている極東ロシアでのビジネスに関連して、意見交換を行った。



ブリーフィング



意見交換会

#### 7月8日（土曜日）ロシア・ウラジオストク

◎知事の日程

(1) 経済・物流セミナー【経済・物流訪問団】

ア 日 時：7月8日（土）10：00～11：40  
イ 場 所：ヒュンダイホテル3Fダイヤモンドホール  
ウ 富山県側：石井知事、高木国際拠点港湾伏木富山港ポートセールス事業推進協議会会長、経済・物流訪問団（12名）  
エ 出席者：FESCO ワジム ウラジオストク支社長、ウラジオストク商業港 ブラホーヴィチ副社長、三井物産モスクワ有限会社 岩垂 英彦 ウラジオストク支店長、ウラジオストク日本センター 向井 一良 所長など  
(合計：110名)

オ 内 容：

○冒頭、石井知事から、①今年、富山県と沿海地方が友好提携25周年を迎える年であり、また、伏木富山港とウラジオストク商業港も、友好港提

携 25 周年を迎えることから、これを機に、富山県の産業の特色や、優れた港湾機能について理解を深めていただき、本県との経済交流や、伏木富山港を活用した日露貿易を促進してほしい旨、挨拶を行った。

- ・引き続き、石井知事から、①富山県と沿海地方は、1992 年に友好提携して以降、県費留学生、海外技術研修員、国際交流員の受入れ、県職員派遣など、息の長い交流をしていること、②富山県は、日本海側屈指の工業集積を有しており、全国トップの医薬品生産額は、2005 年から 2015 年の 10 年間で 2.8 倍の 7,325 億円に伸びていること、③富山県の伝統工芸品は、ニューヨークやミラノといった海外の展示会でも大変高い評価を受けていること、本日から、ウラジオストク国立経済サービス大学で「とやま文化 D A Y S」として富山県の伝統工芸品を P R する展示会を開催することから、ぜひ足を運んでほしいこと、④伏木富山港は、日本海側で唯一、ロシアとの定期コンテナ航路(月 2 便)を有しており、R O R O 船も月 5 便あるなど、ロシアとの貿易に関して日本で最も利便性の高い港であること、⑤伏木富山港においてはウラジオストクなどロシアとの間で、石炭、アルミインゴット、製材などの輸入、中古自動車や自動車部品などの輸出が活発に行われており、コンテナ貨物は、2005 年から 2015 年で約 7.7 倍に伸びていること、⑥富山県は、ウラジオストクからシベリア鉄道を使ってモスクワ方面へ輸出する荷主企業を県独自のインセンティブ制度を設けて支援するなど、シベリア・ランド・ブリッジの利用促進に力を入れているが、さらなる発展のためにはシベリア鉄道の定時性・迅速性の向上が必要であること、⑦本件については、2010 年 5 月にモスクワで開催された日露知事会議において、富山県からシベリア鉄道の定時性・迅速性の大幅な向上を図れば、日本からモスクワをはじめ欧州北部への輸出などの物流のほとんどが、マラッカ海峡、スエズ運河、マルセイユ経由の海上輸送となっている現状の大きな変革につながる可能性があり、日露両国にとって非常にメリットがあるとの提案を行ったところ、ロシア側の議長であった当時のモスクワ市長でもあるユーリ・ルシコフ氏から大変良い提案であるとの評価を受け、共同声明に盛り込まれたなどの経緯があるが、その後も、今日に至るまであまり大きな改善がみられていないように見えるのは残念であること等について、パワーポイントを用いて説明を行った。

- 引き続き、伏木海陸運送株式会社の大門代表取締役副社長より、①伏木富山港は日本海交易の拠点として栄え、1859 年には伏木港の沖にロシア

船が来航した記録があるなど、古くからロシアとの貿易が行われていたこと、②現在、国と富山県が主体となって、コンテナターミナルの岸壁の延伸工事、コンテナヤードの拡張工事を進めていること、③港湾の情報システムの更新について官民で力を合わせて進めていきたいと考えていることなど、伏木富山港の概要や動向について説明があった。



知事冒頭挨拶



知事からの富山県の紹介

## (2) FESCO支社長等との会談～シベリア・ランド・ブリッジの活性化

### 【経済・物流訪問団】

ア 日 時：7月8日（土）11：10～11：40

イ 場 所：ヒュンダイホテル3Fエメラルドホール

ウ 富山県側：石井知事、加藤富山県土木部長、柿沢富山県商工労働部次長

エ 相手側：FESCO ワジム ウラジオストク支社長、ウラジオストク商業港 ブラホーヴィチ副社長

オ 内 容：

○冒頭、FESCO副社長でウラジオストク商業港社長のザイルベック・ユスポフ氏が体調不良で欠席となったことについて、FESCO側からお詫びの言葉があった。

○石井知事から、伏木富山港とロシア極東を結ぶ定期コンテナ航路を30年以上の長きにわたり就航いただいていること、2010年5月に、FESCOのウラジオストク社で当時のドミトリー・マスロフ社長に私がお会いし、伏木富山港のラストポート化を要望したところ、わずか2ヶ月後の7月に、ラストポート化を実現いただいたことに感謝している旨述べた。

・また、①富山県はロシアから石炭、アルミニウムインゴット、製材を輸入し、ロシアへは中古自動車などの輸出を行っていること、

②県では、伏木富山港を拠点とするロシア物流の活性化に取り組んでお

り、2014年には、荷主企業が行うシベリア鉄道を利用したモスクワ向け貨物の試行的な輸送実験に対する助成制度を設けて、貨物集荷に取り組んでいること、

③他方で、ウラジオストクを起点とする貨物輸送は、依然として、通関・荷役に7日、さらには10日以上要することや、シベリア鉄道の定時性等の課題があり、伏木富山港からウラジオストク商業港を経由して、シベリア鉄道でモスクワまで貨物を運ぶのに、30日間を超えるような事例もあるので、これを少なくとも20日間に短縮してほしいこと、望ましい姿としては13日間ぐらいに短縮してもらいたい旨、要望を行った。

○これに対し、FESCOのワジム ウラジオストク支社長より、自分は35年間、この仕事をしてきて、経緯も承知しており、特にこの数年の改善努力によって、ようやく体制整備ができたので、今後は、伏木富山港からウラジオストク経由でモスクワまで20日間はもとより14日間で運ぶことにすると、言明があった。

○石井知事より、①ウラジオストク商業港を通じたシベリア・ランド・ブリッジの活性化の、2010年の日露知事会議における提案と共同声明の作成や、日本政府の外務省、経産省などを通じてのロシアの関係者への働きかけなど、粘り強く取り組んできたが、今回、輸送日数について、我々が望ましいと考えていた13日にほぼ近い14日にしていただけることについて、お礼を述べるとともに、

②今から105年前の1912年の時点において、日本の歌人である与謝野晶子が、新橋を出発しウラジオストク経由でシベリア鉄道に乗ってフランス・パリの鉄幹に会いに行った際に、11泊12日という短期間でウラジオストクからモスクワまで到着していることを勘案すると、現代の技術力のもとで、シベリア鉄道は、さらなる輸送日数の短縮のポテンシャルがあり、その方向での一層のご尽力を要請した。

○石井知事より、今回の大幅な改善が安定的に実施されれば、シベリア・ランド・ブリッジの評価は大きく高まり、スエズ運河経由でモスクワまで貨物を運ぶのに40日から50日かかっていることに比べると非常にメリットが大きいことから、富山県内はもちろん、首都圏など大都市の荷主企業へもPRを行いたい、シベリア・ランド・ブリッジの利用が活発になれば、ウラジオストク商業港や沿海地方の発展につながり、伏木富山港や富山県にとってもメリットが大きいので、共に連携協力していきたい旨、述べた。



冒頭の名刺交換



会談

(3) 伏木富山港・ウラジオストク商業港友好提携 25 周年記念レセプション

【経済・物流訪問団】

ア 日 時：7月8日（土）12：00～13：00

イ 場 所：ヒュンダイホテル3階「ダイヤモンド」

ウ 富山県側：石井知事、高木伏木富山港ポートセールス事業推進協議会会長、経済・物流訪問団員、山本総合政策局長、加藤土木部長、柿沢商工労働部次長 等

エ 出席者：ブラホーヴィチ ウラジオストク商業港株式会社副社長、ワジム F E S C O ウラジオストク支社長、向井一良ウラジオストク日本センター所長 等

合計：110名

オ 内 容

○1992年（平成4年）に伏木富山港とウラジオストク商業港が友好港提携を締結して25年を迎えたことを記念して、富山県とウラジオストクの港湾関係者、企業関係者にご参加いただいてレセプションを開催した。

○石井知事から、①昨日、両県・地方が新たな協定書を締結したこと及び伏木富山港とウラジオストク商業港が新たな友好港提携を締結したこと、②直前に行ったウラジオストク商業港及びF E S C Oの幹部の方との会談において、伏木富山港からウラジオストク港経由モスクワまで貨物で14日間で運ぶことにするとの言明があったこと、をご報告したほか、最近の日本とロシアとの新たな関係を踏まえ、港湾機能の強化、人的交流の推進などに努めていく旨のあいさつを行った。

○ブラホーヴィチ ウラジオストク商業港株式会社副社長からは、ロシアと日本が経済交流を進める中、ウラジオストク商業港と伏木富山港は、これまで長年にわたり港を通じた経済交流を進めてきたが、今回の友好港提携 25 周年を機に、今後ともお互いに協力しながら両港が発展するよう



努めていきたい及びシベリア鉄道の定時性・迅速性の確保についても努力したい旨のあいさつがあった。

- 友好港提携 25 周年の記念品として、富山県から高岡銅器の花入れを贈り、ウラジオストク商業港からは、ウラジオストク商業港を描いた絵画をいただいた。



知事挨拶



ウラジオストク商業港から記念品を受領

#### (4) とやま文化DAYSオープニングイベント【友好訪問団】

ア 日 時：平成 29 年 7 月 8 日（土）14:30～15:30

イ 場 所：ウラジオストク国立経済大学内博物館

ウ 富山県側：友好訪問団、日露友好議員連盟訪露団、観光訪問団、桐山所長ほか

エ ロシア側：ラザレフ・ゲンナージー ウラジオストク国立経済サービス大学理事長、スタリチコフ・アレクセイ沿海地方政府国際局長、笠井総領事ほか

合計：約 170 名

オ 内 容：

- 主催者挨拶として、石井知事から、まず、本イベントの会場として、ウラジオストク国立経済サービス大学博物館の展示室をお貸しいただいたラザレフ・ゲンナージー大学理事長に感謝申しあげるとともに、今回のイベントでは、①富山県の優れた伝統工芸品の展示、島谷好徳氏による「すずがみ」や「おりん」の製作実演、富山県の地酒や食の試飲・試食、などを通して、富山県の魅力を存分に堪能いただきたいこと
- ・②今回のイベントが、昨年 12 月、安部総理とプーチン大統領の間で開催が合意された「ロシアにおける日本年」の事業としてロシア全土で最初に認定された事業であり、このイベントが両県・地方の文化の交流をはじめ、両県・地方関係のさらなる発展に寄与できることを願っていることを述べた。

○次に、ラザレフ・ゲンナージー ウラジオストク国立経済サービス大学理事

長（ウラジオストク・トヤマ会会長、同日に沿海地方とやま友の会代表世話人に就任）から、「日本からの参加はもちろん、土曜の休日にもかかわらずこのように多くのロシアの方にも参加いただき、日ロの友好関係が国レベルのみならず地方間でも深まっていることをうれしく思う。この後、「沿海地方とやま友の会」の設立総会を開催するが、この会の活動によって、両県・地方の交流がさらに深まることを期待している。また、そのためにも、今後、両国の国民が（ビザなしで）自由に行き来できるようになることを願っている。」とのご挨拶をいただいた。

○続いて、スタリチコフ・アレクセイ沿海地方政府国際局長から、両県・地方は、この25年間教育や環境、観光分野をはじめ様々な交流を積み重ねてきており、森本庭園や桜並木なども市民によく知られ、愛されている。こうしたなか、このとやま文化 DAYS が開催されることは、とても有意義な機会であり、ぜひ多くの市民の皆さんに楽しんでいただきたい。」とのご挨拶をいただいた。

○最後に笠井 在ウラジオストク日本国総領事から、「昨日、石井知事とミクルシェフスキー知事が記念植樹をされたが、多くの人々が（お互いの交流という）水をあげることによって、この木に両県・地方の友好のシンボルとなる立派な花が咲くことを期待している。」との祝辞をいただいた後、総領事のご発声により参加者全員が富山県の地酒で乾杯しました。

○開催初日の8日は、10時の開幕から、大学生や教育関係者、新聞記者、チラシを見た地元の方々など多くの来場者で賑わいました。なかには、ウラジオストク市から100キロ以上離れた市からお越しいただいた方もいらっしゃり、関心の高さをうかがうことができました。

○なかでも、島谷好徳さんの実演は人気が高く、多くの方々がすずを叩いて薄く延ばす技術の高さに驚き、実際に体験してみたいという方も多数おられました。また、おりんについても、「どのような時に使うのか。」「何でできているのか。」「市民の日常品なのか。」「いくらするのか。」など多くの質問があり、実際に叩いてその音色に聞き入っている方も多くいらっしゃいました。

○来場者へのアンケートでは、能作のK A G O、シマタニ昇龍工房のすずがみ、山口久乗のおりんなどが人気を集めました。また①デザインが面白い、②富山県の伝統的な技術が気に入り日本への関心が高まった、③とても素晴らしいイベント、もっとこうしたイベントを行ってほしい、④もう少し規模を大きくして実施してほしい、などのご意見を多くいただきました。

○このイベントは、大学側のご厚意などもあり、7月8日～12日まで開催する予定です（7月9日は大学博物館が休館のため実質4日間の開催）。開催期間中、より多くの方に来場いただき、富山県の魅力がさらに広く発信される場となることを願っています。

○なお、セレモニー終了後、ラザレフ理事長に、大学構内にある森本庭園（富山県ウラジオストク友好庭園）や桜並木を案内していただきました。理事長からは、森本庭園が2013年に沿海地方のトップ10の観光地になったことや、結婚式や友人の集まりなどで、この庭園が多くの市民に利用されており誇りに思っているといったお話がありました。



石井知事 挨拶



ラザレフ理事長 挨拶



スタリチコフ局長挨拶



笠井総領事 乾杯



島谷好徳氏 実演



すずがみ製作体験



展示会の様子



展示会の様子



試飲・試食コーナー



森本庭園視察

#### (5)「沿海地方とやま友の会」設立総会

ア 日 時：平成29年7月8日(土) 16:30～16:50

イ 場 所：ヒュンダイホテル3F エメラルドホール

ウ 富山県側：石井知事、山本総合政策局長

エ 友の会側：ラザレフ代表世話人、タラシェンコ世話人、ヤンファ世話人  
ほか会員25名

オ 内 容：

○ラザレフ代表世話人より、「沿海地方とやま友の会」の設立の宣言と会の活動概要の紹介に引き続き、さまざまな立場の人が参加しており喜ばしく感じており、これから富山県と沿海地方の交流を活発化させていきたい旨を話された。

○石井知事より、沿海地方とやま友の会の発足について祝意を述べるとともに、  
①ラザレフ代表世話人をはじめ、今回お集まりの会員の方々には、25年の間に海外技術研修員、留学生、日本語スピーチコンテスト優勝者などさまざまな形で富山県と関わり、長く続く友好交流に貢献されていることに感謝して

いること、②近年の安倍首相とプーチン大統領による日露関係の進展を踏まえ、富山県と沿海地方も交流発展を目指し、昨日、沿海地方政府において新しい協定書に署名したこと、③「とやま文化 DAYS」の開催にもご助力いただいたラザレフ代表世話人に大変感謝しており、会員の方々にも「とやま文化 DAYS」に立ち寄り富山県の伝統工品に触れてもらいたいと思っていること、④最後に、「沿海地方とやま友の会」の設立を機に、富山県と沿海地方、ひいては、日本とロシアの交流を深めて発展させていくことに協力いただきたいことを述べた。



ラザレフ代表世話人挨拶



石井知事祝辞

(6) 富山県・沿海地方友好提携25周年記念交流会【友好訪問団】【経済・物流訪問団】【観光訪問団】

ア 日 時：平成29年7月8日(土) 17:30~20:00

イ 場 所：ヒュンダイホテル ダイヤモンドホール

ウ 富山県側：石井知事ほか友好訪問団9名、経済・物流訪問団12名  
観光訪問団3名、日露友好議員連盟12名など計52名

エ 出席者：沿海地方政府など6名、大学関係者3名、笠井達彦在ウラジオ  
ストク総領事ほか2名、向井良一ウラジオストク日本センター  
所長ほか1名、沿海地方とやま友の会会員27名、JNTO ウラジ  
オストク職員、旅行会社7社9名、メディア2社2名計52名

オ 内 容：

- 石井知事から、①この数年、安倍総理とプーチン大統領が頻繁に首脳会合を行い、日露の経済分野などで協力を進めることを決めているが、これを実現に移すためには、国レベルだけではなく地方レベルでの連携協力が不可欠であるため、昨日、沿海地方政府のミクルシェフスキー知事との間で両県・地方の友好交流・協力関係の更なる深化を目指す新協定書を締結したこと、
- ②午前中 FESCO やウラジオストク商業港の首脳に会い、通関及び港湾関連手続きの日数の短縮について要請を行ったところ、伏木港からウラジオストク

- を經由しモスクワまで14日で運べるようにするとの言明があったこと、
- ③これまで富山県と沿海地方が25年間積み上げてきた人的交流、経済交流、環境交流等の様々な実績を踏まえ、今後の25年間、50年間を見据えて、富山県と沿海地方との連携をさらに深めたいと考えていることを述べた。
- パリアンスキー副知事より、①25年の交流の中でも、スピーチコンテストなど、継続的に行われている教育分野の富山県の貢献を高く評価すること、②今回の富山県訪問団に併せて開催される「とやま文化 DAYS」について感謝すること、③今後、両県・地方知事が署名した新しい協定書をもとに関係を発展させたいことを述べられた。
- ラザレフ沿海地方とやま友の会代表世話人より、①これまで、自らが会長を務めるウラジオストク・トヤマ会などが、沿海地方と富山県の交流を支えてきたこと、②友好提携25周年を契機に新しく「沿海地方とやま友の会」が結成され、今後の両県・地方の交流が深まっていくことを期待している旨を示した。
- その後、スライドにより、立山黒部アルペンルート・黒部峡谷・世界遺産五箇山などの県内主要観光地や、桜や紅葉、スキーなどの四季折々の魅力、新鮮で豊富な富山湾の海の幸など食の魅力に加え、本年4月にオープンした「能作」や8月に全面開館する富山県美術館などの新たな観光資源を紹介するとともに、広域モデルコースなどについてプレゼンテーションを行い、本県の多彩な魅力を参加者にPRした。
- 参加したロシアの旅行会社からは、①ウラジオストクは雪がほとんど降らないため、雪の大谷はとても魅力的であり、また、チューリップフェアも人気が出ると思うので、富山県への春のツアー商品の造成を検討したい、②新湊の内川は、今回の交流会で初めて知ったが、とても美しく風情があり、是非お客様にお勧めしたい、など富山県への送客について前向きなご意見をいただいたほか、③今後のより一層の相互送客の促進に向け、富山—ウラジオストク便の復活を大変期待している、との声が聞かれた。
- 友好訪問団顧問の稗苗県議会議長から、今回の訪露の訪問先の至るところで両県・地方の交流の絆を感じることができたことについての言及があった。
- 高岡銅器の伝統工芸職人の島谷好徳氏より、富山県の伝統工芸や高岡銅器についての説明と、「すずがみ」作製の実演があった。会場の実演コーナーでは、島谷氏の実演が行われたほか、ロシアからの参加者も「すずがみ」作りを体験し、富山県の伝統工芸技術の一端に触れることができた。
- 併せて、富山県の観光資源や伝統工芸品を紹介し、地酒も試飲できるコーナーを設けたところ、多くの人が立ち寄り、富山の地酒の美味しさに舌鼓を打った。

○富山県商工会議所連合会の高木会長より、富山県は江戸時代以降、日本海側屈指のモノづくりの伝統を有し、高岡銅器は日本を代表する伝統工芸品の一つであることや、今後ロシア貿易の玄関口である伏木富山港のPR活動に積極的に取り組むことなどの話があった。

○日露友好議員連盟会長で訪露団の団長である大野県議から、現在休止中の富山—ウラジオストク便の将来の再就航に石井知事や自分も熱意を持っており、再就航に向け、関係者みんなで努力しようとの話があった。



石井知事による挨拶 1



ロシア語での観光説明



出席者と乾杯を交わす石井知事



石井知事による挨拶 2

#### ◎各訪問団のその他の日程

##### 【友好訪問団】【観光訪問団】

##### (1) ウラジオストク日本センターでのブリーフィング

ア 日 時：平成29年7月8日（土）15：40～16：25

イ 場 所：ウラジオストク日本センター

ウ 富山県側：顧問の稗苗議長ほか友好訪問団8名  
観光訪問団3名

エ 相手方：ウラジオストク日本センター 向井所長

オ 内 容：

○向井所長より、7月7日（金）にロシア極東の最新情勢や日本センターの役割等に関するブリーフィングを受けた。

○説明後、ロシアにおける日本に対する関心の高さや、日中韓の企業のロシアへの進出状況等について意見交換を行った。

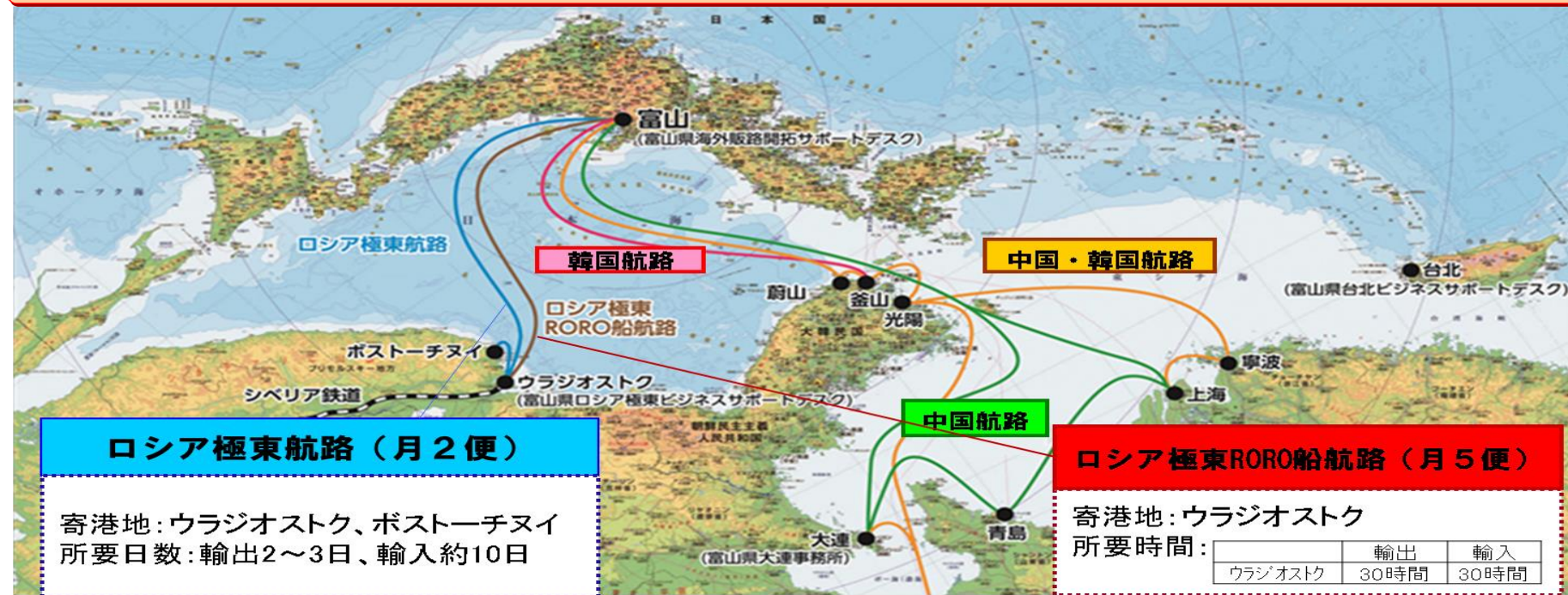


ブリーフィングの様子



# ウラジオストクを起点とするシベリア鉄道の貨物輸送の迅速化・効率化について

## 伏木富山港の国際定期航路



## 期待ふくらむシベリア・ランド・ブリッジ(SLB)



	積荷	海上輸送	通関・荷役	鉄道輸送	合計	
	望ましい形	一般貨物	2日	4日	7日	13日
①	2016年5～6月 【富山→ノボシビルスク】	住宅用外壁材	2日	7日	14日 (普通貨車)	23日
②	2014年9～10月 【富山→ペルミ】	化学品	2日	10日	17日 (普通貨車)	29日
③	2013年8～11月 【富山→モスクワ】	ジッパー部材	4日	24日 (書類修正、貨車手配)	10日	38日
④	2008年2～3月 【富山→ノボシビルスク】	自動車	2日	10日	13日 (普通貨車)	25日

海上ルート(スエズ運河経由)  
 モスクワまで40～50日  
 海上ルート:461,900円/20ft

通関・荷役の所要日数短縮が課題

仕向け地によっては、特急が利用できない

## 富山県の取組

### 日露知事会議での提言



2010.5月 日露知事会議でシベリア鉄道の  
 定時性・迅速性を提起

共同声明に盛り込み  
 日側:全国知事会会長 麻生渡  
 露側:21世紀委員会議長(モスクワ市長)ユーリ・ルシコフ  
 「シベリア鉄道を結ぶ物流ルート確立した上で  
 同鉄道の定時性・迅速性の向上を図る」

### 伏木富山港のラストポート化



2010.5.4 ロシア・極東海運  
 マスロフ社長へ要請

2010.7月 ロシア定期コンテナ航路が  
 ラストポート化

### RORO船の定期航路化

2012.5月 ロシア・極東海運ドミトリー総括責任者へ  
 親書で要請

2012.10月 全国初のRORO船定期航路が就航

### ロシア向け輸送実験

2008年から、継続的に実施

2014.4月 民間向けインセンティブ制度を創設  
 (シベリアランドブリッジ特別枠)

県内外の荷主企業に対する  
 シベリアランドブリッジの利用促進

## 国の取組

### 外務省

貿易経済に関する  
 日ロ政府間委員会  
 (日:外務大臣、露:第一副首相)  
 【開催実績】第1回(1996.3:モスクワ)  
 ...  
 第12回(2016.11:東京)

### 分科会

### 作業部会

内容を反映

### 国土交通省

日露運輸作業部会(次官級会合)  
 日:国交省審議官、露:運輸省次官  
 【開催実績】第1回(2012.6:東京)  
 第2回(2015.11:モスクワ)  
 第3回(2016.8:東京)

【結果概要】  
 ロシア側から、シベリア鉄道の定時性  
 が改善されたとの報告

### 財務省

日ロ貿易円滑化に関する協力覚書の  
 締結(2017.4.12)  
 日:財務省関税局長、露:連邦税関庁長官  
 【主な内容】  
 迅速な通関等を通じた貿易円滑化の  
 確保への努力など

### 課題

- 依然として、通関・荷役に日数を要する。
- 鉄道輸送の日数短縮。

貨物輸送のさらなる  
 利便性向上

## 訪韓・訪露の主な成果について

平成 29 年 7 月 10 日

### 韓国・ソウル(7/6)

- (1) エアソウル 柳代表取締役社長との会談(7/6 18:20~18:40)
- ・私から通年運航の実現又は少なくとも運休期間の短縮、運航時刻の早い時間帯への変更について要請し、エアソウルからは、「要請を重要な宿題ととらえており、検討の時間をいただきたい。」との回答を得た。
- (2) 韓国での観光説明会・交流会の実施(7/6 18:40~20:45)
- ・エアソウルの柳社長、JNTO の任局長や現地旅行会社等を招待して観光説明会を開催した。
  - ・現地旅行会社からは、本県への送客に向け商品造成を促進していきたいなどの積極的な発言が寄せられた。
  - ・参加した富山県の事業者からは、認知度向上に効果があったなど、今後の韓国からの送客に対するかなりの手ごたえを感じていた。

### ロシア・ウラジオストク(7/7-9)

- (3) 新たな協定書の締結及び新たな友好港湾提携について(7/7)
- ・日本とロシアの国レベルでの交流進展とともに、地方における交流が不可欠である点を確認し、新たな協定書を締結した。
  - ・なお、それに先立って、伏木富山港とウラジオストク商業港が新たな協定書を締結した。
- (4) FESCO 支社長、ウラジオストク商業港副社長との会談(7/8 11:10~11:40)
- ・私から、伏木富山港からウラジオストクを経由して、シベリア鉄道でモスクワまで少なくとも 20 日間、望ましい姿としては 13 日間ぐらいに短縮してもらいたい旨要望し、ここ数年の改善努力によってようやく体制整備ができたので、20 日間はもとより 14 日間で運ぶことにするとの言明があった。
- (5) 「とやま文化 DAYS」オープニングセレモニー(7/8 14:30~15:30)
- ・優れた伝統工芸品の展示や「すずがみ」等の製作実演、地酒や食の試飲・試食を通して富山県の魅力を PR する「とやま文化 DAYS」のオープニングセレモニーに出席した。沿海地方の方々や富山県からの訪問団を含め、総勢約 170 名が参加した。
- (6) 沿海地方とやま友の会設立総会(7/8 16:30~16:50)
- ・ラザレフ代表世話人が中心となり、会員総勢 35 名からなる「沿海地方とやま友の会」設立総会が開催された。私と山本局長が来賓として出席し祝辞を述べた。

平成29年7月10日  
国 際 課

## 貿易経済日露政府間委員会・地域間交流分科会 第6回会合の富山開催について

貿易経済に関する日露政府間委員会の下に設置され、両国間の地域間交流の促進を目的とした地域間交流分科会の第6回会合が、このたび富山県富山市で開催されることとなりました。

なお、日本での地方開催は今回の富山市が初めてとなります。

### 1 開催期日

平成29年7月24日（月）

### 2 場所

富山国際会議場（富山市大手町1番2号）

### 3 主な内容（予定）

地域間交流分科会第6回会合、BtoBセッション、レセプション

### 4 出席者（予定）

【日本側】外務省（日本側議長）、関係省庁、自治体、企業・団体他

【ロシア側】経済発展省（ロシア側議長）、関係省庁、地方行政府、関係企業他

### <過去の開催地>

第1回	2007年10月	ウラジオストク
第2回	2008年9月	東京
第3回	2011年7月	ニジニ・ノヴゴロド
第4回	2014年3月	東京
第5回	2016年7月	ハバロフスク

### <参考資料>

・地域間交流分科会第5回（結果概要）（外務省資料）

# 地域間交流分科会第5回会合(結果概要)

外務省日露経済室  
平成28年7月

## 概要と評価

- 7月1日、ロシア極東のハバロフスク市で地域間交流分科会第5回会合を開催(共同議長:原田政府代表, ツィブリスキー経済発展省次官)。日露双方から政府・地方・企業関係者等計約70名が出席。直前のBtoBセッションで日露企業が交流。
- 今次会合開催は、地域間交流の更なる促進が必要との認識が共有された、5月の日露首脳会談のフォローアップとしての位置づけ。
- 分科会では、自治体間交流、民間企業等による地域間経済交流、青年交流等の現状と展望につき意見交換。幅広い地域間交流の促進に向けた日本センター事業及び日露青年交流事業の役割を評価。
- 地域間交流の一層の深化に向けて協力していくこと等を記載した議事録に署名。
- 医療、農業、都市環境等の日本企業のビジネスに対するロシアの中央・地方政府の適切な支援を要請し、8項目の協力プランの具体化を後押し。



分科会  
会合



BtoBセッション

## 主な出席者

- ・日本側～外務省(原田政府代表, 山本在ハバロフスク総領事, 田島在露大公使他), 地方自治体(鳥取県, 新潟市), 企業等15団体(三井物産, 丸紅, 双日, 飯田グループ, 北斗, 北海道総合商事, JGCエヴァーグリーン, MIRAI, JETRO, 環日本海経済研究所(ERINA), ハバロフスク日本センター他)
- ・ロシア側～経済発展省, 地方政府(欧露部:プスコフ州, ニジェゴロド州/極東・シベリア:ハバロフスク地方(及び同市), 沿海地方, サハ共和国, サハリン州, カムチャツカ地方, マガダン州, ユダヤ自治州, トムスク州), 企業等10団体, スリペンチュク国家院議員(対日議員グループ代表)。